

★今週の聖句

「ホサナ。主の名によって来られる方に、祝福があるように。」

マルコによる福音書 11:9

★ ねらい

- ① 救い主を待ち望んでいた人々がいたことを覚えたい。子ろばを貸してくれた者、迎えた者の姿からそれが分かる。
- ② イエス様が子ろばに乗られたのは救い主の姿が誰よりも低く仕えるものであることを教えるためでした。

★ 説教作成のヒント

- ・ 熱狂的に人々がイエス様を迎えたがそれは裏切りへの序章であった。
- ・ 枝の主日の後、聖週間に入る。最後の一週間を心整えて歩むためにもお迎えしたということ覚えておくことは大切。
- ・ 「柔和」と訳されている言葉で柔和とは「腰をかがめた状態」を指す言葉です。

★ 豆知識

- ・ 枝の主日、棕櫚主日は、イエス・キリストがロバに跨り、エルサレムに入城したときを記念するもので、エルサレムに来たイエスを、群衆が「なつめやし」の枝を手に持ち「ホサナ。主の名によって来られる方に、祝福があるように、イスラエルの王に」と叫んで迎えたことを覚え、教会でも聖別して用いたりする。
- ・ ホサナーアラム語のギリシャ音写で、「おお!救いたまえ」。
- ・ 引用されている言葉はゼカリヤ書 9:9 にイザヤ 62:11 を加えたものと思われる。

★ 説教

イエス様は三年間旅をして、たくさんの人々がイエス様こそ救い主だと信じて期待するようになりました。いよいよその旅も終わります。エルサレムという首都に入って、最後の一週間を過ごしたあと、イエス様は十字架にかかれ、神さまの栄光を現されます。

王様が帰って来る時はどんな姿で帰ってくるのでしょうか。大きなカッコいい馬に乗って、後ろにたくさんのお客と一緒に来るのでしょうか。イエス様もずいぶん有名になりましたから、王様と同じくらいカッコよく、たくさんの人々に迎えられてエルサレムに入って来られたのでしょうか。そうではありませんでした。イエス様の入城は確かに王様を迎えるように人々は迎えますが、入ってくる人はまるで王様らしくない姿で入ってくるのです。見ている人が吹き出しそうなような姿、足が地面につきそうな子ろば、荷物を載せるろばの子どもに乗り、そのままの姿で来られるのです。それは最も優しい方、戦いではなく、平和をもたらす者としてここに来ましたとイエス様は言葉ではなく、姿で教えてくださいたいのです。子ろばに乗るイエス様は誰よりも腰をかがめ、小さくなられ、貧しかった

り、病気のゆえに弱い立場に追い込まれている人と共に歩まれるのです。

そういえば、イエス様の乗られているろばはどうしたのでしょうか。実は弟子たちがイエス様が乗るものを探しに行き、事情を話すと貸してくれる人がいたのです。本当は大事なるばです。今で言うならば、宅急便屋さんが自分のトラックを貸してくれるのと同じです。それを見ず知らずの人に貸すなんて不思議です。そうして貸してあげられたか。それはその人たちが救い主を待っていたからです。長い間待つ、待つ、待ち続けていたからです。迎えたたくさんの人々も「ホサナ、救ってください」と言っていました。救ってください、神さま一緒に歩んでください。その心を持つときに救い主を心からお迎えすることができます。

わたしたちも自分の大事なものを神さまにお貸ししたりできるほど、神さまのことを大切にしているか今日は考えてみたいと思います。そして、わたしのために仕えてくださるイエス様に感謝して歩んでいきましょう。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

3 2 番

改訂版 8 2 番

やってみよう

皆で下の朗読劇をする（または読んであげる）。

登場人物：ナレーター①～⑤・さんびくん・男①②・おとうさん・イエス様・町の人

場面 1；ナレーター①；あるところにロバの子「さんび」くんがいました。

さんびくんはいつもにこにこ、皆からかわいがられていました。

でも毎日だんだんとそのにこにこがなくなってきて、ためいきばかりつくようになってしまいました。なぜかって？

さんびくん；「あ～あ、ぼくはみんなにかわいがられているけれど、ちっとも皆の役にはたつてないなあ…ちよつとがっかり…」

「お父さんはあんなに毎日思い荷物をしょってお仕事しているのに、ぼくはちからもちじゃないからダメダメって言われちゃうんだもん。」

ナレーター①；ダメダメって言われ続けているさんび君はうつむいて歩くようになりました。

♪「子ロバのうた」1 番を歌う

場面 2；ナレーター②；そんな気持ちになって少しづつ静かになっていったさんびくんでした。

ある日のこと、家に二人の男の人が来ました。

男①；こちらにさんびくんというロボくんはいませんか。

おとうさん；はい。私の子どもです。何かご用ですか？

男②；実はイエス様がさんびくんと一緒にエルサレムに行きたいとおっしゃってます。

おとうさん；それはどういうことでしょうか。

さんびはまだまだ小さくて、人に乗ってもらうなど無理だと思います。

男①；そうですか。困りました。イエス様はぜひさんびくんに…とのことで、

あなたのご主人にも、さんびくんを連れて行ってよいとお許しをいただいているのですが…。

おとうさん；それは困りました。

さんびくん；おとうさん、ぼく行きたいよ！

だってイエス様がぼくに…っておっしゃってるんでしょう。

ぼく、イエス様にのってもらおう！

おとうさん；そんなことを言っても、もし途中でイエス様がおちたりしたら大変だ。

おとうさんは賛成できないな。

男②；おとうさん。イエス様はすべてのことをご存じで、さんびくんに…とおっしゃっているのです。かならずうまくいきますから、さんびくんといかせてください。

おとうさん；さんび、大変なことだぞ。本当に大丈夫なのか？

さんび；うん！！

ぼくいっしょうけんめいがんばるよ。だからいってきます。

♪「子ロバのうた」4番を歌う

場面3；ナレーター③；さんびくんはおとうさんに許してもらって、イエス様のところに行きました。

イエス様はやさしい大きな目でさんびくんを見ました。

イエス様；さんびくん、よくきてくれたね。

私はおもいけれど、よろしくたのみます。

さんびくん；はい！ぼく、イエス様とられるの、とっても嬉しいです。

さあ、早くのってください。

ナレーター③；さんびくんはイエス様にのってもらいました。

イエス様；さんびくん、おもくないかい。

さんびくん；う～、大丈夫。がんばります。

よいしょ、よいしょ…。

♪「子ロバのうた」5番を歌う

ナレーター④；イエス様を乗せたさんびくんはよろよろしています。

でもイエス様はゆったりとして、さんびくんに堂々とのっています。

少しづつエルサレムの門が近づいてきました。

イエス様；もうすこしだよ、がんばって。

★今週の聖句

「あの方は復活なさって、ここにはおられない」

マルコによる福音書 16:6

★ねらい

①ガリラヤはイエスと弟子たちにとって、故郷であり、生活の場でした。わたしたちにとっても、復活したイエスとの出会いの場は、自分たちの生活の場の中でのことを覚えない。

②福音書は昔イエスという方がいたというだけでなく、今もわたしたちの現実の中でともにいてくださる、ということを伝えている。

★説教作成のヒント

・当時の墓は洞穴のようになっていて、入口が円盤型の大きな転がる石でふさいでありました。「白い長い衣を着た若者」(5節)はもちろん天使です。

★豆知識

- ・イエスが十字架で死んだのは今で言えば、金曜日の午後3時ごろでした。古代ユダヤでは日没から新しい一日が始まったので、この日を1日目とすると、金曜日の日没から土曜日の日没までの「安息日」が2日目、土曜日の日没から日曜日の日没までの「週の初めの日」が3日目ということになります。
- ・イエスは土曜日の日没に始まる3日目の夜のうちに復活したと考えられてきました。

★説教

たんぽぽは強い生命力を持った不思議な花です。たんぽぽの種は綿毛を作って飛んでいきます。そうするとそこにあった茎は一旦枯れてなくなってしまいます。冬の間、たんぽぽは地面にその葉をくっつけて、雪の下、また寒さの中、命を育てていきます。私たちの目からはそこには何もないように見えて、実は新しい命への希望が、続きがそこにはあるのです。そして、春が来ると一斉に新しい命、蓄えてきた命を咲かせるのです。地面の上には何もないように見えて実はそこに命の希望がある。なんともすばらしいことだと思います。そして、たんぽぽの種は綿毛として飛んでいきます。どこに落ちるか分からない。風に身を任せる旅です。風に運ばれていくということは命から切り離されて、死んでしまうということですが、一度死んで旅をすることでたんぽぽは新しい命、大きな命を生み出していくのです。すべての命、私たちの命を含め、何もなくなった、全てが終わったと思うようなところから希望が生まれていく、喜びが始まっていることを教えられます。人の思いや想像を越えたところに新しい命と希望は生まれてくるのです。

イースターは春のお祭りです。長い冬を生き延び、堪え忍び、新しい命がめばえ、喜びの花を咲かせます。その喜びを私たちも受け取るのがイースターです。イエス様は十字架にかかれて死なれました。けれども、三日目の朝、その墓は空っぽでした。そこにあるはずのイエス様のご遺体はなかつ

たのです。そこに来た女性達はみんな悲しみました。誰かが盗んだと思ったのです。でも、それは違いました。生きている人がお墓の中にいる必要はないのです。イエス様はもうすでに死んではおられない、生きて歩まれているのです。

わたしたちの生活の中でも悲しいことや困難なことは何度もあります。しかし、それは永遠に続くことはありません。主イエスがその苦しみを打ち砕いて、ご自分の死と悲しみを打ち砕かれたように私たちに希望と喜び、新しい命へと導いてくださいます。空っぽの墓は悲しみのしるしではなく、希望のしるしなのです。イエス様はもうお墓にはおられません。約束されたように復活され、そして私たちと共に生きておられるのです。墓におられず、すべての人に希望を伝える歩みが始まっているのです。私たちが最も大きな喜びに満たされて歩みだしましょう。イースター、おめでとう。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

41番

改訂版89番

やってみよう

- 1) たまごさがしをする。
- 2) キャンディ探しをする。→卵の代わりにイースターカードとキャンディなど小さなお菓子をいれた袋を探す。
- 3) イースターカードを自分で描き、好きな人にあげる。

はなそう

・お墓の中ってどうなっているのかな？

日本のお墓、外国のお墓、イエス様の時代のお墓、色んなお墓のお墓の中を調べてみよう。

・花が咲いたり、赤ちゃんが生まれたり、どうして嬉しいんだろう？

・クリスマスとイースターの違いって何だろう？

★今週の聖句

「全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい。」

マルコによる福音書 16:15

★ねらい

- ① 「全世界に出て行き、すべての造られた者に、福音を宣べ伝えよ」と言われる宣教の大神令を心に留め、それをスタートとしたい。
- ② 「信じて洗礼を受ける者は、救われます」はある意味では宣教のゴールが洗礼へ導くことを示し、洗礼を受けた人の歩みはそこからはじまることを教えられる。

★説教作成のヒント

- ・ 天に昇られる前のイエス様から語られた言葉はある意味ではバトンタッチです。神さまの信頼を受けて歩いていくこと、はっきりとした使命があることを覚えたいと思います。

豆知識

- ・ マルコによる福音書は「イエス・キリストの福音のはじめ」と言う書き出しで始まりました。今、十字架を通して福音は完成しました。そこにはイエス様の言葉や生き方すべてが入っています。それをわたしたちは伝えます。
- ・ 同じ宣教の大神令でもマタイ 28章の「あらゆる国の人々を弟子としなさい」と違っている。マルコでは「行きなさい」という言葉、全世界にということが強調されています。
- ・ しるしは漢字では「験」と書く。神さまが現してくださるわざであり、わたしたちから直接力が出る、出せるということではなく、わたしたちを通して神さまの力が働くこと。

★説教

イースターを迎えて、私たちは復活されたイエス様と共に歩む時を過ごします。イエス様と人々の出会いは大切なことを教えてくれます。復活されたイエス様はまずマグダラのマリアに、そして、続いて二人の弟子に現れられます。彼女はイエス様の墓を覗き込んでいました。マリアは慕っていたイエス様の死によって悲しみにふさぎ込みそうになってしまっていたのです。悲しい人を放っておられないので、イエス様はマリアのところに現れたのです。後ろからイエス様は声をかけられます。振り返ってそこにイエス様を見つけてマリアはもう後ろを向くことなく、前向きに歩き出しました。私たちが本当に必要としているときに声をかけてくださるのが、復活のイエス様なのです。

そして、二人の弟子に現れる出来事で不思議なのはなぜイエス様は別の姿で現れられたかということです。それは受けとめる者の心が閉ざされている時にそのように見える、イエス様が近づいて共にいてくださってもイエス様だと分からないということを教えてくれているのです。主を主として受けとめられない時、喜びを喜びとして受けとめられないほど心が閉ざされている時がある。でも、それ

をうち破るためにイエス様は現れ、共にいてくださるのです。そして、別の姿のもう一つの意味を私たちは忘れてはいけません。イエス様は今日でもとなり人の姿として私たちに現れてくださっているということです。復活されたイエス様が別の姿で現れたのは私たちがとなり人にキリストの姿を感じ、見ることの先取りなのです。わたしの姿を通して、キリスト者はイエス様を見るのです。私たちはとなり人を通して、イエス様に仕えるだけではなく、自分を通してとなり人がイエス様に仕えるためにも生きています。

イエス様は三度目には弟子たちに自ら現れ、不信仰とかたくなな心をとがめられて、信じることを伝え、そして「全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい」と言われます。宣教の号令です。福音を宣べ伝えることは特別なことではありません。あなたの助けを必要としている人に手を差し伸べて共に生きていくこと、共に歩む者にキリストの姿を見ながら生きていくことが福音を宣べ伝えていくことなのです。「自分を愛するように、隣人を愛せよ」とイエス様が残された最も大切な教えを実践していくことが福音を宣べ伝えていくことです。イエス様ならどうやって生きるかを考えながら歩いていきましょう。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

40番

改訂版86番

やってみよう

- 1) イエスさまがよみがえったことをきいたお弟子さんたちは、どう思ったでしょう。
- 2) イエスさまが現れた時、お弟子さんたちが感じたことを考えてみましょう。
- 3) 派遣されたお弟子さんたち11人の名前をおぼえましょう。

*シモン・ペテロ

*ヤコブ

*ヨハネ

*アンデレ

*フィリポ

*バルトロマイ

*マタイ

*トマス

*アルファイの子ヤコブ

*タダイ

*シモン

はなそう

- イエス様の命令って簡単？難しい？どうやって実行してる？
洗礼を受けた教会の人たちに聞いてみよう！
- 「すべての造られたもの」とは人間だけではなく、神さまが造られた被造物を指しますが、人間以外の被造物に「福音を宣べ伝え」とはどういうことでしょうか？

★今週の聖句

「舟の右側に網を打ちなさい。そうすればとれるはずだ。」

ヨハネによる福音書 21:6

★ねらい

- ① 悲しむ者、困難の中にいる者のただ中にイエス様が来てくださることを覚える。
- ② キリストの声に従うと、弟子達は多くの魚を取る事ができましたように、わたしたちもキリストの声に従う時、豊かな道が示される。

★説教作成のヒント

- ・人は、失意の内に昔の生活に戻りしてしまいます。そして、懸命に努力しても実を結ぶことができず疲れてしまうことがあります。しかし、イエス様は決して見捨てられません。

★豆知識

- ・ペテロを始めとする弟子達は、キリストの復活後故郷のガリラヤに戻りました。失意の内にかつての仕事である漁をしました。
- ・右側—聖書の中においては祝福の側。
- ・「イエスの愛しておられたあの弟子」(7節) …ヨハネのことと考えられています。
- ・「153匹もの大きな魚」(11節) …153種類はすべての人種を示しています。すべての民がとらえられるという預言。
- ・パンと焼き魚—当時の社会のスタンダードな食べ物であると同時に、パンは(聖餐において)キリストの体、魚(イクトゥース)は救い主キリストそのものを示すものです。

★説教

イエス様を失った弟子たちはそれぞれの故郷に帰りました。でも、心のどこかでイエス様を忘れることができず、また集まって来たのでしょう。シモン・ペトロが「わたしは漁に行く」と言う他の者たちも「わたしも一緒に行こう」と言って着いてきます。生きるために仕方なく、仕事をしますが、そんな心ここにあらずの仕事に成果がついてくるわけはありません。夜通し魚をとるのですが、何もとれず、焦りと疲れで茫然としている弟子たちにイエス様は現れられ、そして、舟の右のほうへ網をおろすように伝えます。聖書では右とは神さまの側をあらわし、左というのは、人の側をさします。つまり、これまでは人間の判断や、努力だけで自分たちはやってきた。しかし、神さまの力とみ心に従ったら、すなわち「舟の右側に網を打ちなさい」というみ言葉に従って網をおろしてみたら、魚がたくさんとれたというのです。ティベリアス湖畔でイエス様がこの奇跡を現されたのは、弟子たちがもう一度神さまのみ言葉に従って生きるようになるためだったのです。右のほうに網をおろすことと、左のほうにおろすことはちょっとした違いでしかないようで、永遠の違いをもたらせるのです。

イエスの言葉に従った弟子たちの網にはもはや引き上げることができないほどの魚が捕れたとい

います。ティベリアス湖に一五三種類の魚がいて、その全部の種類が捕れたという意味だとも言われます。そして、一つの民族ではなく、すべての民族、国民に、多くの人々に伝えなさい。多くの人々の心をとらえる漁師になりなさいということを弟子たちに伝えているのです。

最後に、イエス様は「さあ、来て、朝の食事をしなさい」と言われます。弟子たちが捕ってきた魚ではなく、イエスご自身が用意してくださっていたパンと魚を用いて。本当に必要なものは主が備えてくださいます。主は「さあ、食事をしよう」と弟子を招かれるのです。共に食事をしようと言ってくださっているのです。この共に食事をするのが七人の弟子たちにとって、今、本当に大切なことだから、この時を通して、弟子たちは更に力いっぱい歩むものとなれるのです。人間が生きていく中で欠かすことのできない食事の時を、主イエスは大切な時として根本的なところにやって来てくださるのです。叱ったり無理に励ましたりではなく、食事という楽しい時間を共に過ごすことにより、一人一人の心に語りかけてくださるのです。今、弟子たちに心の糧と体の糧が与えられ、再び歩みだすことができるのです。

今日もイエス様はわたしたちに神さまの言葉に従って生きなさいと言われていています。神さまの言葉を聖書の中から聞きながら、祝福の側に網を投げ入れていきましょう。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

1 1 5 番

改訂版 9 1 番

やってみよう

- 1) 画用紙・折り紙・新聞紙等で魚をつくり、さかなつりをする。
ふろしき・シートなどでたぐりよせれば臨場感が増す？
- 2) 赤・青・みどり・黄等いろいろな色で魚をたくさんつくり、広い場所に並べる。
色を決めて（大人が決める・くじを引くなど）、一定時間のうちに誰が一番たくさんとれるか。

はなそう

- ・魚釣りをしたことがある人に、針を落とすポイントをどうやって決めるか聞いてみよう。
- ・「楽しい食事」ってどんな食事？じゃあ「楽しくない食事」ってどんな食事？
- ・イエス様とする食事ってどんなだろう？楽しい？何で楽しい？どんな場所で、イエス様以外には誰と、何を食べたい？

★今週の聖句

「わたしの羊を飼いなさい。」

ヨハネによる福音書 21:17

★ねらい

- ・ 三度イエス様を知らないと否定したペテロを赦すイエス様の愛を受けとめたい。
- ・ キリストの弟子の歩みはただ自分が歩む道ではなく、羊飼いが羊を飼うように人々を導くことが使命である。

★説教作成のポイント

- ・ イエス様はキリストの弟子として立つ上で最も根本的なことをペトロに確認したのです。それは、キリストへの愛です。
- ・ 一連のできごとで、自分の弱さを知らされたペトロは、自分の存在のすべてを知っているキリストに、自分をゆだねたのです。

★豆知識

- ・ 愛するか：イエス様の問いかけははじめの二回「アガペー」（神の愛）の愛で尋ねる。それに対してペトロは「フィリア」（友愛、親しい者への愛）の愛で答えている。三度目にイエス様はペトロに対して「フィリア」の愛で尋ねる。それはイエス様の側からの近寄りです。
- ・ イエス様は、ペトロがこれからの生涯、キリストを愛しつづけ、従いつづけ、死に至るまで、キリストの素晴らしさを現し、生涯を全うすると告げられたのです。

★説教

イエス様の一番弟子はシモン・ペトロという人でした。シモン・ペトロはイエス様が十字架にかかれる前にその様子を覗いている時、「お前、イエスの弟子だろう」と周りの人に言われました。恐ろしくなっただけで三度も「そんな人知らないよ」と言ってしまいました。言った後、どうしてあんなことをしてしまったのだろうか…と後悔していました。イエス様が復活されてからもずっと心苦しい、申し訳ない思いでした。そんなシモン・ペトロにイエス様は「シモン・ペトロ、誰よりもわたしを愛しているか」と尋ねられました。ペトロさんは自信をもって「愛しています」と答えました。でも、イエス様は微笑みながら、二度、三度と同じ質問をします。「わたしを愛しているか」と。堪えながら、十字架にかかれる前の自分の姿を思い出したので、ペトロは悲しくなりました。でも、それはイエス様がペトロさんをいじめたのではなく、時にはイエス様を裏切ってしまうわたしたちの愛を受けとめて、イエス様はわたしたちを愛してくださるということなのです。

そして、その次にイエス様が言われるのは、「わたしの羊を飼いなさい」、「わたしの羊を世話なさい」ということです。これは一言で言い表すならば、伝道しなさい、神さまのみことば、キリストの生涯を宣べ伝えて、人々をキリスト者にしなさいということなのです。これまであなたたちはわたしに

養われてきたけれども、これからはあなたが羊飼いとして、羊を世話しなさいといわれるのです。でも、羊を飼うということは餌をあげるだけではありません。世話をすると成長させる、導くという役目も担っています。羊飼いはいつも羊の先頭に立っているだけではなく、自分の任された羊一頭一頭を覚え、群れの前にいたり、時には真ん中に来て様子を見たり、時には一番後ろから見守り、追い立てるような方法で励ましたりします。怖い敵が来たら戦わないといけません。ですから、「羊を世話しなさい」とはあなたは世界中のすべての人がキリスト者として生きていけるよう、その人と共に歩み、共に成長していきなさいということ、常に真剣に相手のことを考えて、共に歩みなさいということなのです。特別な生き方ではありませんが、主イエス・キリストが生涯をかけながら私たちに教えてくださった生き方であって、相手のために命を捨てるほどの生き方、神の愛を実践していく生き方をしなさいといわれるのです。神さまの愛を実践していくこと、「わたしの羊の世話をする」という、羊を成長させる役目をキリスト者は常に担っているのだということが語られているのです。

「わたしの羊を飼いなさい」それはイエス様から私たちに伝えられる最後の使命です。イエス様がわたしたちの羊飼いとなってくださったように、わたしたちも多くの方の羊飼いになれるように成長していきましょう。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

36番

改訂版120番

やってみよう

- 1) 羊の絵に色を塗り、しおりにする。
- 2) 自分が今までにした失敗を思い出そう。
たぶんヨハネ・シモンは同じ気持ちだったはず。
でもイエス様は許してくださることを覚えよう。

はなそう

- ・ゆるされたこと（「ゆるす」って言われたこと）ある？そもそも何をされた？そしてどうしてゆるしてもらえた？
- ・ペトロはどうしてゆるされた？そもそも何をされた？
- ・ゆるしたこと（「ゆるす」って言ったこと）ある？そもそも何をされた？そしてどうしてゆるした？
- ・ゆるしていないこと、ゆるされていないこと（「ゆるす」と言えない、言ってもらえていない）ある？そもそも何をされた（された）？どうしてゆるされていない（ゆるしていない）？